

放課後子ども総合プランコーディネーター等研修

平成29年5月16日(火) 七戸中央公民館

参加者 119名

5月17日(水) 青森県総合社会教育センター

参加者 238名

放課後子ども総合プランは、地域で中心的な役割を担うコーディネーター等関係者の資質向上及び放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業の連携を図るための情報交換等を行う研修会です。

平成29年度は5月16日(火)に七戸中央公民館、17日(水)に県総合社会教育センターで開催されました。

講師は、両日共にNPO法人ゆめ・まち・ねっと代表 渡部 達也氏・美樹氏をお迎えして、「課題を抱える子への接し方～『おもしろ荘』での活動について～」をテーマに、講義と演習をしていただきました。

講師 渡部 達也氏・美樹氏

冒険遊び場たごっこパークとおもしろ荘

「昔、私たちが遊んだ川や森、そして空き地は、今では子どもたちが自由に遊ぶことができない場所になってしまった。」と渡部氏は話していました。

「静かに遊んでね」と標識のある公園、立ち入り禁止の空き地、入ってはいけない川 etc また、校内暴力、いじめ認知件数、不登校、児童虐待などの件数は、昔に比べるとはるかに増えているにも関わらず、それらに対応する関係機関の数はほとんど増えていません。本当に支援を必要とする子どもたちに対し、少しでも手を差し伸べることができれば、という思いから、子どもたちが自由に遊べる場の提供（特に、家庭や学校に居場所を見出せない子どもたちに対しての居場所作り）として、冒険遊び場たごっこパークとおもしろ荘の運営を行っているということです。



○冒険遊び場たごっこパーク

富士市から都市公園を借りて、自由な外遊びの環境を子どもたちに提供。たごっこパークには「AKB」という言葉がある。「A」はあぶない、「K」はきたない、「B」はばかばかしいという意味で、遊び方とはにかく自由。（川遊び、ドラム缶風呂、たき火をしながらマシュマロづくり、のこぎりやかなづちを使った工作・・・）

パークに来ているにもかかわらず、遊ぶのも自由、遊ばないのも自由。公園内では、ゲームをしている子もいる。視察に来た人からは、

「ゲームは禁止にしていないの？」ということ聞かれる。それに対して渡部氏は、「ゲーム依存になっている子と会いたい。そのような子どもたちと出会って日々を重ね、遊ぶことの楽しさを覚えてほしいと思っている。逆に四六時中ゲームをしている子どもに対し、親子関係はどうなっているのかなと思う。」と話しておられました。



○おもしろ荘について

市内の商店街の空き店舗を改装して、放課後子どもたちが自由に過ごせる場所として、「おもしろ荘」を提供しています。

宿題をする小学生、駄菓子を食べながらマンガを読む中学生、スマホを片手におしゃべりをする高校生、仕事の疲れを癒やす若者など、様々な年代の若者が居場所を求めておもしろ荘に集まっています。

また、一人ひとりの求めに応じた学習の場を提供する「個別学舎寺子屋」、一人ぼっちでの食事（孤食）をしている子ども、会話溢れる温かな食卓に恵まれていない子どもたちと出会うために開設した「子ども食堂」なども、おもしろ荘では運営をしているということでした。

母性性と父性性

「母性性とは、『相手に安らぎを与える力、相手を受容する力、そのままでもいいんだよと言ってあげる力』、父性性とは『こうしなきゃだめでしょう、こうでしょう。』というように、相手に対して命令ばかりを言うこと。学校や先生方の指導は父性性の固まりであり、だからこそ地域や家庭はやさしく子どもたちを包む場所であってほしい。しかし、最近家庭も地域も父性性が強くなってきている。(あれしなさい、これしなさいばかりの家庭、塾や習い事でも、今これこれをしなくてどうするのかと求められる。)

安らぎを失った子どもたちは、大小様々な不適応行動を示すのは当然のこと。だからこそ、安らぎを失った子どもたちを母性性で包んであげてほしいし、特に放課後の居場所は学校の代わりでなく、家庭の代わりであることから、母性性に包まれた居場所にしてほしい。」と話されました。



演習について

近年起こった若者の事件についての新聞記事を読みながら、問題点を拾い出し、グループで共有するという作業を行いました。参加者からは、「事件に関係している子どもたちには、家庭にも、地域にも気持ちを発することができず、それを受け入れる何かがあれば、事件にならなかったのでは。」や「全く違った4つの事件が、結局は人と人とのつながりがあれば防ぐことができるという結果に至ったのには驚きました。」などの意見が聞かれました。



参加者のアンケートから

- ・講演会では、最後まで聞き入ってしまう程の内容でした。子どもの教育を通して、親子関係のあり方や人生観まで考えさせられました。子どもは世界中の宝物だという意識を持つことで、平和に繋がっていくのではと思うほどの感動でした。(放課後子ども教室支援員)
- ・子どもたちの周囲は「父性性」だらけだということを痛感しました。だからこそ「母性性」(相手に安らぎを与える力、相手を受容する力、そのままでもいいんだよと言ってあげる力)が大切だと思いました。(読み聞かせボランティア)
- ・とてもおもしろく興味深かったです。今は就学前までの子を持つ親の子育て支援活動をしていますがおもしろ荘のような活動してみたいと思いました。(小学生～高校生)→特に「子ども食堂」をやりたいと秘かに思っています。(NPO 関係者)

〈講師紹介〉



渡部 達也氏・美樹氏 (NPO 法人ゆめ・まち・ねっと代表)

【略歴】(渡部 達也氏)

1988年4月 静岡県庁入庁

県職員として、東部児童相談所、税務課、(財)静岡経済研究所、富士山こどもの国、静岡国体実行委員会等で勤務するも、2004年6月退職。同年9月「NPO法人 ゆめ・まち・ねっと」を、美樹氏と仲間とともに設立。その実践力が注目を浴び、テレビ東京「がんばれプアーズ!」、日本テレビ「ミヤネ屋」をはじめ、テレビ・ラジオ等多数出演。「人にやさしいまちづくり、そして、人がやさしいまちづくり」を掲げて子どもたちの居場所づくりを中心に大人の共感の和を広めるべく活動中。